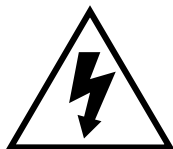




# StageSource L3t / L3m / L3s

## 取扱説明書

【重要】安全にお使いいただくために



## 注意

感電の恐れがあります。  
開けないでください。



**警告：**火災や感電を防ぐため、ねじ等を外さないでください。この内部にユーザーが補修できる部品はありません。製品に問題がある場合はメーカーまでお問い合わせください。

**警告：**火災や感電を防ぐため、製品を雨や湿気にさらさないでください。

**注意：**本製品は米国連邦通信委員会(FCC)により定められたFCCルールの「クラスB デジタル機器」に準拠するようテストおよび製造されています。本製品は以下の二つの条件のもとで使用してください：(1)本製品を有害な妨害行為に使用しないこと (2)意図されない動作を起こすものであっても干渉信号はすべて受信すること。



三角形で囲まれた稲妻の記号は「感電注意!」を意味します。これは動作電圧があること、および感電の危険性があることを示しています。



三角で囲まれた感嘆符は「注意!」を意味します。この警告記号で示されている情報は安全のため必ずお読みください。

注：

Line 6 は Line 6, Inc の登録商標であり、米国およびその他の国において商標登録されています。StageSource は Line 6, Inc の登録商標です。無断複写・複製を禁じます。

SERIAL NO: \_\_\_\_\_



お読みください【重要】安全にお使いいただくために本取扱説明書は安全な場所に保管しておいてください



- 本取扱説明書をお読みください。
- 本取扱説明書は安全な場所に保管しておいてください。
- 全ての警告事項を守ってください。
- 本取扱説明書の指示に従って使用してください。
- 本製品を水気のある場所で使用しないでください。
- 汚れた場合には乾いた布で拭いてください。
- 製品の換気孔を塞がないでください。取扱説明書の指示に従ってインストールしてください。
- 本製品をラジエーター、暖房機器、ストーブなどの熱源、およびその他の熱を発生させる機器（アンプを含む）の近くに置かないでください。
- ⊕ ● 本製品は保護接地接続（アース）を使用して壁コンセントに接続してください。
- 分極プラグ、接地プラグの安全目的を守って使用してください。分極プラグには2本の先端部があり、一方がもう一方より幅広くなっています。接地プラグには2本の先端部に加え、接地ブレードがあります。幅広いほうの先端部および接地ブレードは安全のためにつけられています。付属のプラグがコンセントに合わない場合はお近くの電気店等にお問い合わせください。
- 電源コードを踏んだり、挟んだりしないようご注意ください。特にプラグやコンセント付近、機器から出ている部分のコードにごご注意ください。
- 弊社指定の付属品やアクセサリ以外のものは使用しないでください。
- 弊社指定もしくは機器に付属しているもの以外のカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは使用しないでください。またカートを使用する際、転倒等による怪我を避けるため、カートと機器の同時取扱いにごご注意ください。
- 雷雨や嵐の場合、もしくは長期間使用しない場合は機器のプラグを抜いてください。
- 製品に問題がある場合には弊社までお問い合わせください。電源コードやプラグの損傷、水などの液体がかかった、物が製品上に落下した、製品が雨や湿気にさらされた、異常な動作をする、製品を床に落としたなどが原因で故障した場合にはサポートサービス・修理が必要です。
- 本製品を水滴や水しぶきにさらさないでください。また花瓶などの液体が入っている物体のそばに置かないでください。
- 警告：火災や感電を防ぐため、本製品を雨や湿気にさらさないでください。
- 接続切断デバイスとして電源接続器を使用しているため、接続切断デバイスはすぐに使用可能な状態となっています。
- 以下のAC電源にのみ接続可能です：100/120V 220/240V 50/60Hz（電源装置の電圧によります）。
- 長時間にわたり大音量で音を聞き続けると回復不可能な難聴や聴力低下などの原因となる場合があります。常に「安全な音量」を心がけるようにしてください。
- 本製品が以下のような原因で故障した場合にはサポートサービス・修理が必要です。
  - 電源コードやプラグの損傷
  - 水などの液体がかかった、物が製品上に落下した
  - 製品が雨や湿気にさらされた
  - 製品を床に落とした、内部が破損した
  - 異常な動作をする、パフォーマンスが著しく変化した
- L3にはスピーカーを吊り下げるためのフックが付いています。リアパネルのフックはスピーカーを向ける角度を調整するために使用してください。
- スピーカーを頭上に設置する場合には、必ず資格を持つ専門のエンジニアに相談してください。不適切に設置すると、損傷、怪我、死亡の原因となることがあります。
- 必ず各自治体の建築基準および各市町村、県、国の安全ガイドラインに従ってラウドスピーカーや周辺機器を設置および使用してください。



ご購入ありがとうございました

## STAGESOURCE L3t / L3M TOWER

ソロまたはデュオのパフォーマーにとってStageSource L3tはシンプル、パワフルそしてコンパクトな総合ライブ・サウンドのソリューションです。スタンドアロンのPAシステムとして使用する場合、2つのマイク/楽器インプット、ミッドレンジをスイープ可能な3バンドのフルEQ、スマート・エフェクト(モジュレーションとリバーブ)、ピエゾ・ピックアップ付きのアコースティック・ギターのアウトプットを強化するLine 6アコースティック・ギターモデリングや12バンドのフィードバック・サプレッション技術を備えた内蔵ミキサー等、パフォーマーが必要とする機能が全てカバーされています。より人数の多いバンドや、ライブ・イベントや教会で使用する場合、StageSource L3tはPAシステム(フロント)やモニターとして設定することができます。独自のLine 6ネットワークワーキング・プロトコルであるL6 LINK™で接続されている場合、StageSource L3tスピーカーは自動的にお互いを検出し、それに応じてセッティングを調整します。StageSource L3sサブウーファーとのシステムで使用された場合、クロスオーバーやレベルは最高のパフォーマンスが得られるよう自動的に設定されます。

L3tは6つの革新的なスマート・スピーカー・モードを備えており、スピーカーのアウトプットをPAシステム(フロント)、フロア・モニター、キーボード用、アコースティック・ギター用、またはLine 6 POD®マルチ・エフェクターと一緒に使用した場合にはハイパフォーマンスなアンプ・スタック(バックライン)など、さまざまなパフォーマンスのシナリオにあわせて最適化することができます。スマート・スピーカーのモードは手動で設定できるほか、ポールにマウントされている/モニターとして使用するために傾けられているなどの状況を検知する内蔵の方位センサーを使用して設定することが可能です。

L6 LINK™で接続すると、StageSource スピーカーおよびStageScape M20d デジタル・ミキサーは比類なき能力と柔軟性を発揮します。一緒に使用することにより、従来の「ミキサーとスピーカー」という枠組みを飛び越え、コンポーネントをつなげただけではないインテリジェントなエコシステムによる新しいライブ・サウンド体験を実現します。

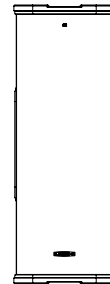
StageSource L3mは、パワフルかつフレキシブルなPAシステムを必要とするユーザーのニーズを満たせるよう特別にデザインされています。機能的には、マルチ・チャンネル・ミキサー・パネル以外はL3tと同様です。

### 特徴

- 3ウェイ、トライアンプ方式により1,400ワット以上のハイパフォーマンス
- 加速度計およびポール・マウント・センサーを内蔵
- バックライン・モードで使用の場合、スピーカーからの出力を上方へ飛ばすバーチャル・ティルト・バック
- 複数スピーカーのセットアップに対応するL6 LINK™マルチチャンネル・デジタル・オーディオ・ネットワーク
- モジュレーションおよびリバーブ内蔵 (L3tのみ)
- 12バンドのフィードバック・サプレッション
- ライブで素晴らしいアコースティック・ギター・サウンドを実現するアコースティック・ギター・モデリング (L3tのみ)
- スピーカーを横に倒した場合、30°、60°、90°の角度で出力可能
- ツアーにも対応する、二重に補強された合板の筐体
- フルスクリーン・バック・スチール・グリル
- 持ち運びを便利にする格納式のハンドル
- 4つのM10サスペンション・ポイントとひとつのM10プルバック・ポイント

### 別売オプション

- L3t/mスピーカー・バッグ(98-037-0001)
- ショート・ポール用L3sサブのマウント用(98-037-0003)
- ロング・ポール用L3sサブのマウント用(98-037-0004)
- アイボルト・サスペンション・キット(98-037-0005)



## STAGESOURCE L3s サブウーファー

StageSource L3sは、ライブおよび録音済みの音楽の両方で要求される厳しいパフォーマンスニーズを満たせるよう特別に設計されています。例えばライブではリズム体向けに最高にパンチの効いたキックやベースを作り出すことができます。その他のLine 6スピーカーと組み合わせる場合も、従来のシステムに組み込んで使用する場合でも、StageSource L3sは標準的なパワーのサブウーファーと比べてはるかに高い性能を持っており、先進的なDSP、スマート・デザインおよびL6 LINK デジタル・ネットワークングによる真の拡張性を備えています。

L3sには革新的なスマート・スピーカー・モードが搭載されており、スピーカーのアウトプットをフラットからベースが極端に強調されたものまで、パフォーマンスのシナリオにマッチさせた特性に最適化できます。スマート・スピーカーは手動で設定できるほか、L6 LINK™デジタル・ネットワーク経由で設定することも可能です。

StageSource L3sは、Line 6の新しいマルチチャンネル・デジタル・オーディオ・ネットワークング・プロトコルであるL6 LINKを備えています。StageSource スピーカーをL6 LINK 経由で接続すると、クロスオーバーおよび極性の設定、ステレオ・シグナルなどが自動的に設定され、必要に応じて計算されます。L6 LINKからスピーカーに送信される信号は、最高級のサウンド・クオリティを保つ高解像度のデジタル・オーディオです。

L6 LINKで接続すると、StageSource スピーカーおよびStageScape M20d デジタル・ミキサーは比類なき能力と柔軟性を発揮します。一緒に使用することにより、従来の「ミキサーとスピーカー」という枠組みを飛び越え、コンポーネントをつなげただけではないインテリジェントなエコシステムによる新しいライブ・サウンド体験を実現します。

3つのポール・マウント(ネジ山付き)は、ほかのLine 6スピーカーとのさまざまな組み合わせに対応しています。またステレオのインプットおよびアウト/スルーにより、従来のライブ用機材と容易に統合することが可能です。

詳細は弊社ウェブサイト([www.line6.jp/manuals](http://www.line6.jp/manuals))をご覧ください。

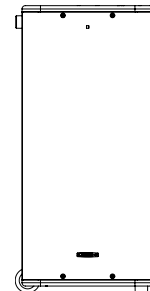
L3シリーズのユーザー登録はオンラインで行ってください。ユーザー登録を行うことで、L3シリーズのスピーカーに問題が起こった場合の製品保証を受けられるほか、特別オファーの対象にもなります。

### 特徴

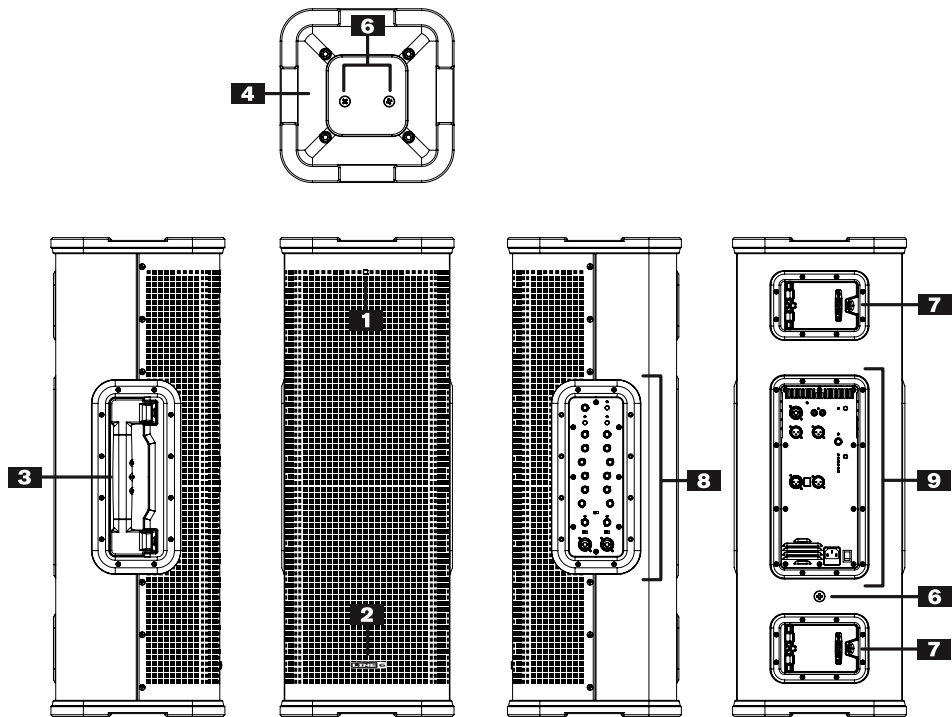
- バイアンプ方式による1,200ワット以上のハイパフォーマンス
- ライブのあらゆる状況で最高のサウンドを可能にするスマート・スピーカー・モード
- ユーザー選択可能なクロスオーバー・ポイント
- L3sと他のライブ用機材との統合を容易にするステレオ・アウトプット
- 複数スピーカーのセットアップにも対応するL6 LINK™マルチチャンネル・デジタル・オーディオ・ネットワークング
- 垂直、水平のどちらにも設置できるデザイン
- 垂直設置用ポール・マウント×1(ネジ山付き)、水平設置用の追加ポール・マウント×2(ネジ山付き)
- ツアーにも持ちこたえられる頑丈な筐体
- ツアーにも持ちこたえられるスチール・グリル
- 3つのハンドルと2つの車輪による最高のポータビリティ

### 別売オプション

- ショート・ポール—L3t/L3m タワーのマウント用(98-037-0003)
- ロング・ポール—L3t/L3m タワーのマウント用(98-037-0004)
- L3sカバー(98-037-0006)



# StageSource L3t / L3m



高さ 33-7/8" / 861 mm

幅 12-1/4" / 312 mm

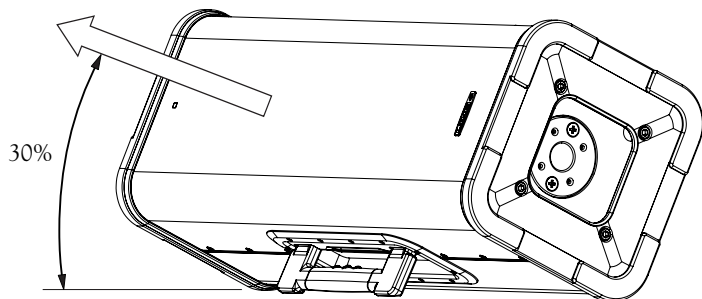
奥行 12-1/4" / 312 mm

重量 57.5 lbs / 26.1 kg

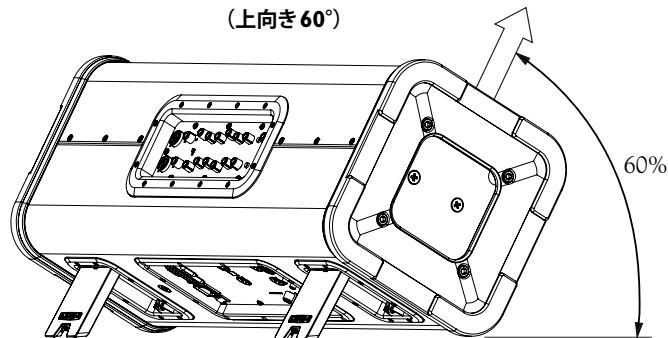
## L3t/L3mの詳細

1. **LED**—スピーカーに電力が供給されているとフロント・パネルのLEDが白く点灯、リミッターが動作すると赤く点滅、StageScape M20dとコミュニケーションが確立すると青く点灯します。
2. **ロゴ**—Line 6のロゴ・バッジは90°回転することが可能です。軽く引っ張り出して好みの方向にまわし、元に戻してください。
3. **ハンドル**—頑丈なハンドルはスタンドとしても使用することが可能です。L3t/L3mを上へ30°傾けることができます(左下の図を参照)。
4. **エンドキャップ**—頑丈なエンドキャップはハンドルとして使用できます。
5. **ボール・マウントおよび加速度計**—ボール・マウントは標準的な直径35ミリのスピーカー・ポールに対応しています。「バックライン」モードが選択されている場合(キーボード、アコースティック・ギター、エレクトリック・ギター)、L3t/L3mの加速度計が方位を確認し、ボールに取り付けられているかどうかをボール・センサーが確認します。スピーカーが垂直に設置されていてボールに取り付けられていない場合、L3t/L3mは「バーチャル・ティルトバック」を稼働させ、主軸に対して上部へ傾くようにスピーカーのチューニングを最適化します。これによって音を上向きにし、スピーカーが床に設置されている際にパフォーマーの耳に向かって音が届くようにします。  
スピーカーがボールに取り付けられている場合、バーチャル・ティルトバックは稼働しません。スピーカーがすでに高い位置にあり、好ましい方向に音が向いていると判断されるためです。
6. **サスペンション・ポイント**—L3t/L3mにはスピーカーを吊すためにM10規格(ネジ山付き)の取り付けポイントがあります。上部に2つ、下部に2つ、そしてリアパネルにプルバック・ポイントが1つあります。
7. **キックスタンド**—リアパネルには、L3t/L3mを60°上向きに傾けることができるキックスタンドが2つ内蔵されています(右下の図を参照)。
8. **サイドパネル(L3tのみ)**—サイドパネルにはミュージシャンがよく使うインプットやコントロールが付いています。詳細は8ページをご覧ください。
9. **リアパネル**—PAがよく使うインプット、アウトプットやコントロールが付いています。詳細は10ページをご覧ください。

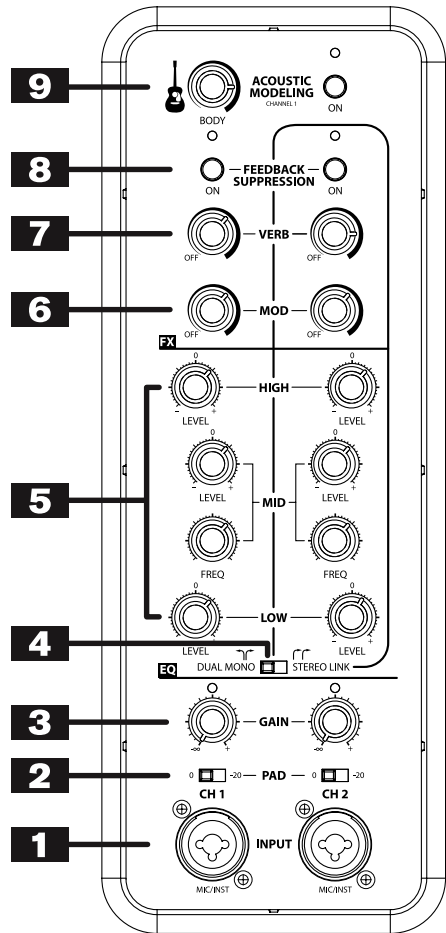
フロア・モニター：ハンドルをスタンドとして使っている場合  
(上向き30°)



フロア・モニター：キックスタンドを使っている場合  
(上向き60°)



# StageSource L3t





## L3tのサイドパネル

1. **インプット・ジャック**—マイクまたはライン楽器をコンボ入力端子(XLRまたは1/4インチ)に接続します。1/4インチ・インプットにはアンバランス(TS)またはバランス(TRS)ケーブルを使用することが可能です。アコースティック・ギターを接続する時はチャンネル1を使用してください。
2. **パッド・スイッチ**—インプット信号が大きすぎる場合は-20dBのパッド・スイッチを入れてください。
3. **チャンネル・ゲイン**—各チャンネルのインプット・レベルを調整します。シグナルLEDは信号を検知すると緑に点灯し、クリップした場合は赤く点滅します。
4. **ステレオ・リンク・スイッチ**—ステレオ・リンク・スイッチがDual Monoに設定されている場合、各チャンネルは独立したセッティングを維持します。ステレオ・ソースを2つのインプットに接続する場合、2つの信号を同時に1つのつまみでコントロールできる方が便利な場合があります。ステレオ・リンク・モードにすることによってチャンネル1のコントロールを無効にし、チャンネル2のコントロールで両方のインプットを操作することが可能になります。1台のL3tを使用する場合、ステレオ信号はモノにまとめられてからスピーカーに送り出されます。

2台目のL3tがL6 LINKで接続されている場合、ステレオ信号は自動的に2台のスピーカーに振り分けられます。詳細は16ページをご覧ください。

アコースティック・モデリングはチャンネル1のみで使用可能であるため、Stereo Linkモードでは無効になります。

5. **EQ**—各チャンネルには-12dBから+12dB(ユニティゲインは0dB)に調節できる3バンドのEQが付いています。ローは80Hzで固定、ミッドは100Hzから8kHz(センター・ポジションは800Hz)までスイープ可能(固定帯域幅は0.7オクターブ)で、ハイは12kHzに固定されています。
6. **Mod**—内蔵のモジュレーション・エフェクトのかかり具合を調整します。モジュレーション・エフェクトはボーカル・ダブルリングに似ており、アコースティック・ギターやキーボードにも最適です。2台目のL3tまたはL3mがL6 LINKで接続されている場合、モジュレーションは自動的にステレオ仕様になります。
7. **Verb**—内蔵のホール・リバーブのかかり具合を調整します。リバーブはStageScape M20dデジタル・ミキサーと同じもので、ライブ・サウンドの強化には最適です。2台目のL3mがL6 LINKで接続されている場合、リバーブは自動的にステレオ仕様になります。
8. **フィードバック・サプレッサー**—フィードバック・サプレッサーは常にオーディオ信号を分析し、フィードバックの特徴を持つ周波数(倍音が少なく一定の周波数で、音量が増加)を識別した後、狭いノッチ・フィルターによってその周波数を切り取ります。L3tのフィードバック・サプレッサーでは最大12のフィードバック周波数を取り除くことができます。

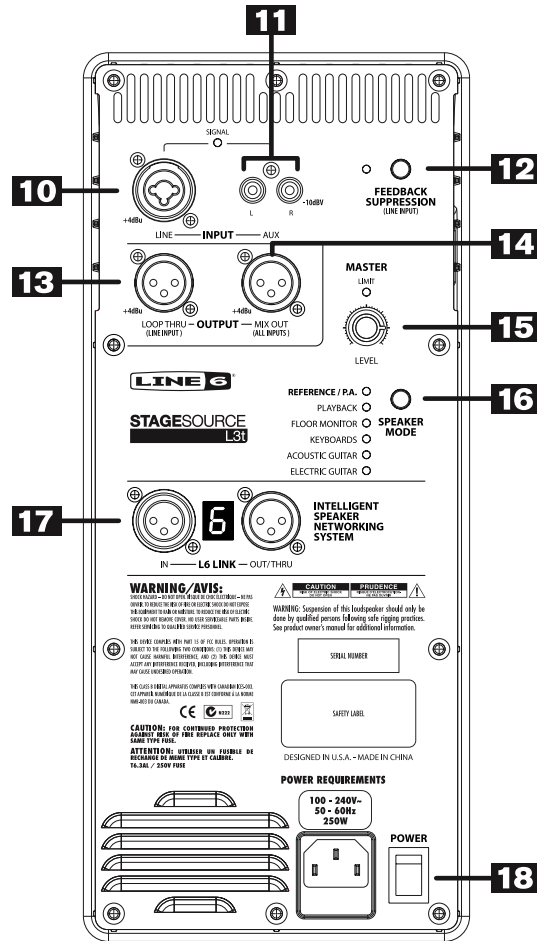
Onボタンでフィードバック・サプレッサーのオン/オフを行います。フィードバック・サプレッサーがオフにされるたび全てのフィルターがリセットされます。フィードバック・サプレッサーを再度オンにするとまた分析が始まり、フィードバックが検知されるとフィルターが入ります。

フィードバック・アナライザーには3つのモードがあり、フィードバックの可能性のある周波数の検知精度の高さを選択することができます。Onボタンを押し続けることで、フィードバック・サプレッサーのかかり具合をアグレッシブ(赤)、ミディアム(黄色)、マイルド(緑)から選択できます。

9. **アコースティック・モデリング**—アコースティック・ギターの多くにはピエゾ・ピックアップがついています。これは弦の響きは拾いますが、ギターの前にマイクを立てた場合と比べ、本体の鳴りをうまく伝えられません。L3tのアコースティック・モデリングは、Line 6のVariacアコースティック技術に基づき、ピエゾからの信号にモデリングによるアコースティック・ギターの自然な本体の鳴りを加えることで、スタジオでマイク録音したアコースティック・ギターの音をシミュレートします。アコースティック・モデリングはチャンネル1のみ有効です。

Onボタンでアコースティック・モデリングのオン/オフを行います。ボディ・ノブによってボディ・レゾナンスの調整が可能です。

# StageSource L3t / L3m

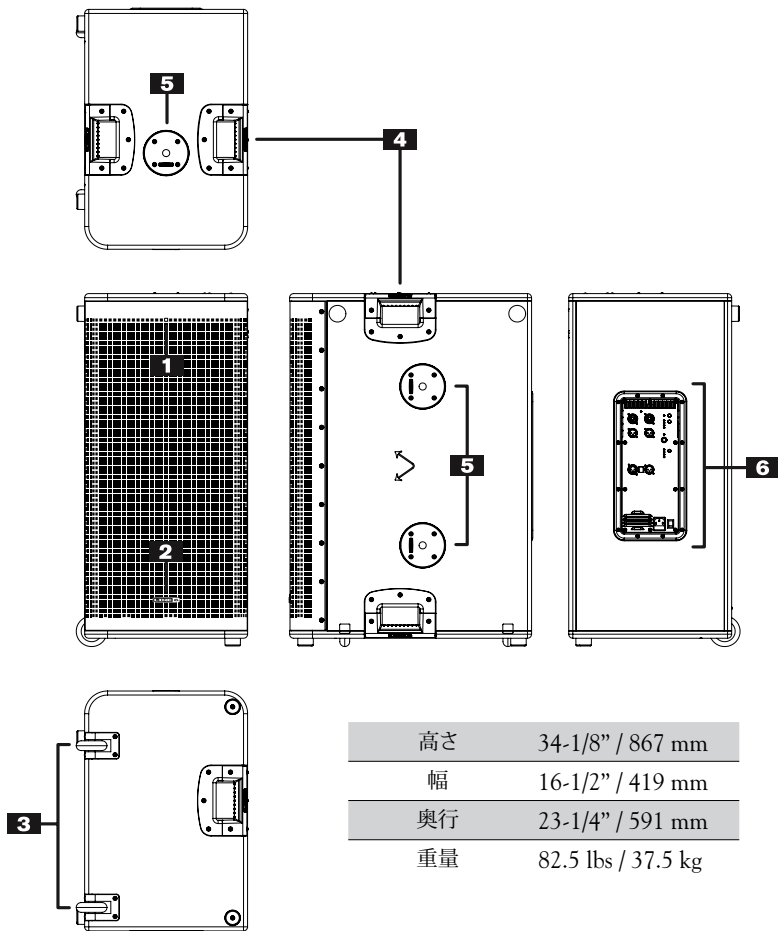


## L3T/L3Mのバック・パネル

- 10. ライン・インプット**—ミキサーからのラインレベル・アウトプットをコンボ (XLRまたは1/4インチ) ライン・インプット端子に接続します。1/4インチ・インプットはアンバランス (TS) およびバランス (TRS) ケーブルに対応しています。シグナルLEDは信号を検知すると緑に点灯し、クリップした場合は赤く点滅します。
- 11. LR Auxインプット**—DJミキサー、MP3プレイヤー、CD/DVDプレイヤーなどからのオーディオ・アウトプットはこちらのLRステレオRCAジャックに接続してください。1台のL3t/L3mを使用する場合、LRのインプットはモノにまとめられます。2台目のL3tまたはL3mをL6 LINKで接続した場合、AuxインプットのLRは自動的に2台のスピーカーに振り分けられます。詳細は16ページをご覧ください。
- 12. フィードバック・サプレッサー**—ミキサー・インプット・チャンネルの12バンド・フィードバック・サプレッサーを作動させます。Onボタンでフィードバック・サプレッサーのオン/オフを行います。Onボタンを押し続けることでアグレッシブ (赤)、ミディアム (黄色)、マイルド (緑) のフィードバック・サプレッサーのかかり具合を選択することができます。
- 13. ループ・スルー・アウトプット**—ライン・インプットから入力された信号をそのまま出力します。
- 14. ミックス・アウト・アウトプット**—3つチャンネル (チャンネル1、チャンネル2、バック・パネルのインプット) 全てのミックス信号を出力します。
- 15. マスター・レベル**—全体のアウトプット・レベルを設定します。マスター・リミッターが作動するとLimit LEDが点灯します。
- 16. スピーカー・モード**—L3t/L3mはさまざまな使用環境に最適化することができます。スピーカー・モード・ボタンを押し、リファレンス/PA、フロア・モニター、キーボード、アコースティック・ギター、またはエレキギターのいずれかを選択してください。詳細は下記の図をご覧ください。
- 17. L6 LINK™**—L6 LINKと互換性がある製品同士をつなぐ、独自のパワフルなデジタル・リンク機能を提供します。大変分かりやすく、信頼性があり、ケーブル一本で接続することができます。L3t/L3mの場合、L6 LINKで接続されているスピーカーを連結することができるため、全ての製品が同期され、それぞれ相互に通信することが可能です。L6 LINKで二つ以上のL3tおよびL3mスピーカーが接続されている場合、7セグメント・ディスプレイには、スピーカーの定位が左 ("L")、右 ("r")、またはL+Rモノ ("b") のように表示されます。StageScape ミキサーと使用されている場合、7セグメント・ディスプレイは各スピーカーを番号で識別します。
- 18. パワースイッチ**—スピーカーのオンまたはオフを行います。

スピーカー・モード	詳細
リファレンス/PA	フラットな周波数特性、2.2kHzクロスオーバー、最大の低域拡張によりライブ・サウンドの強化に最適です。
プレイバック	録音されている音楽に最適化されています。PAモードに似ていますが、超低域・超高域が強調されています。
フロア・モニター	フラットな周波数特性、3.5kHzクロスオーバーのモードで、楽器に最適なウォームな特性を提供し、相対的にスピーカー・コーンからのエネルギーが強化されます。
キーボード	フラット・フリーケンシー・レスポンスと3.5kHzクロスオーバー周波数を持つこのモードは楽器に最適な暖かめのレスポンスを提供し、スピーカー・コーンからの相対的なエネルギーを強化します。
アコースティック・ギター	3.5kHzクロスオーバー周波数に、プーミーな部分を最小化させるためにカスタマイズされた低域特性が追加されています。
エレキ・ギター	全体的な周波数特性は212のコンボ・アンプをエミュレートしています。10インチ・スピーカーはフルレンジとして機能し、ホーンでわずかに高域の輝きを追加しています。

# StageSource L3s



高さ 34-1/8" / 867 mm

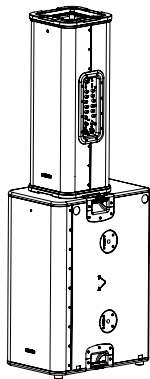
幅 16-1/2" / 419 mm

奥行 23-1/4" / 591 mm

重量 82.5 lbs / 37.5 kg

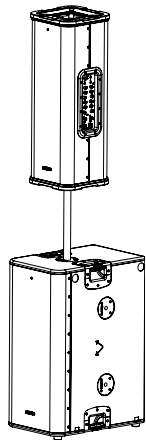
## L3sの詳細

1. **LED**—スピーカーに電力が供給されているとフロント・パネルのLEDが白く点灯、リミッターが動作すると赤く点滅、StageScape M20dとコミュニケーションが確立すると青く点灯します。
2. **ロゴ**—Line 6のロゴ・バッジは90°回転することが可能です。軽く引っ張り出して好みの方向にまわし、元に戻してください。
3. **車輪**—70ミリの車輪がついており、容易にL3sを運搬することができます。
4. **ハンドル**—L3sには運搬を容易にする頑丈なハンドルが3つ付けられています。
5. **ポール・マウント**—ネジ山付きのポール・マウント(上部に1つ、右側に2つ)はLine 6製のM20規格ネジ山付きスピーカー・ポールに対応しています。
6. **リア・パネル**—リア・パネルには全てのインプット、アウトプットおよびコントロールが付いています。詳細は14ページをご覧ください。



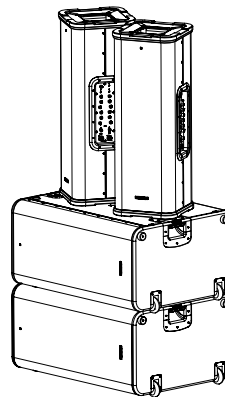
**L3sサブとL3tタワー 1つ**  
(ステージ上)

短いスピーカー・ポールを1本使用してください(別売)。



**L3sサブとL3tタワー 1台**  
(フロアまたは低いステージ上)

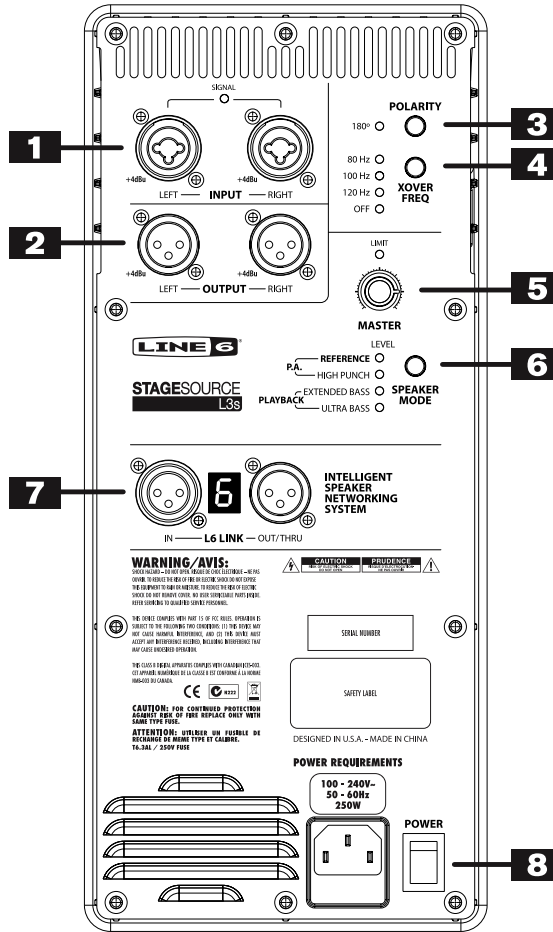
長いスピーカー・ポールを1本使用してください(別売)。この配置では626ミリ以上のポールは使用しないでください。



**L3sサブとL3tタワー 2台**

短いスピーカー・ポールを2本使用してください(別売)。この配置では700ミリ以上のポールは使用しないでください。L3sのサイド・パネルに表示されている矢印の方向にL3tタワーを角度を付けて設置します。

# StageSource L3s



## L3sのバック・パネル

- 1. インプット**—ミキサーからのラインレベル・アウトプットをコンビ・ライン入力端子(XLRまたは1/4インチ)に接続してください。1/4インチインプットはアンバランス(TS)およびバランス(TRS)ケーブルに対応しています。シグナルLEDは信号を検知すると緑に点灯し、クリップした場合は赤く点滅します。
- 2. アウトプット**—インプットで受信した信号に、ハイパス・フィルターがかけられた信号(Xover Freqの設定によって)のライン・レベル版がこのアウトプットから出力されます。アウトプットは、Line 6 製以外のフルレンジ・スピーカーにハイパスされた信号を送るために使用されます。L3sやL3tのスピーカーと使用する場合は、代わりにL6 LINK接続をデジタル・オーディオやシステムの自動設定に使用することができます。
- 3. 極性**—L3sの二つの12インチ・ウーファーを駆動する信号の極性を反転させるにはこのボタンを押します。LEDが点灯している場合、信号の極性は反転されています。
- 4. Xover Freq**—このボタンを押すことで、内蔵の12インチ・ウーファーおよびステレオ・アウトプットに送られる信号のローパス・クロスオーバー・フリークエンシーを選択することが可能です(80Hz、100Hz、120Hz、またはオフ)。
- 5. マスター・レベル**—L3sの全体のアウトプット・レベルを設定します。マスター・リミッターが作動するとLimit LEDが点灯します。
- 6. スピーカー・モード**—L3sはさまざまな使用環境に最適化することができます。このボタンを押してリファレンス、ハイパンチ、エクステンデッド・ベース、ウルトラ・ベースのいずれかを選択してください。詳細は下図をご覧ください。
- 7. L6 LINK™**—L6 LINKと互換性がある製品同士をつなぐ、独自のパワフルなデジタル・リンク機能を提供します。大変分かりやすく、信頼性があり、ケーブル一本で接続することができます。L3sの場合、L6 LINKで接続されているスピーカーを連結することができるため、全ての製品が同期され、それぞれ相互に通信することが可能です。L6 LINKで二つ以上のL3sスピーカーが接続されている場合、7セグメント・ディスプレイには、スピーカーの定位が左("L")、右("r")、またはL+Rモノ("b")のように表示されます。StageScapeミキサーと使用されている場合、7セグメント・ディスプレイは各スピーカーを番号で識別します。
- 8. パワースイッチ**—L3sの電源をオンまたはオフにします。

スピーカー・モード	詳細
リファレンス	ライブ・パフォーマンスに最適化されており、L3sの最大の帯域幅において比較的フラットなフリークエンシー・レスポンスを提供します。
ハイ・パンチ	キック・ドラムのインパクトを強めるため、80Hzをわずかに強調します。
エクステンデッド・ベース	録音されている音楽に最適化されています。
ウルトラ・ベース	エクステンデッド・ベースに似ていますが、ダンピングされておらず、低域の周波数特性の幅が広げられています。

## L6 LINK™について

L6 LINKはLine 6の開発した独自のデジタル・ネットワークング・プロトコルであり、様々なLine 6製品間をケーブル1本で簡単に、しかも高い信頼性で接続できます。

最大9台のL3t/L3mおよび9台のL3sスピーカーをL6 LINKで接続することができます。チャンネルのアサインは自動的に行われ、連結されている最初のスピーカー(マスター)がネットワーク上にある他のスピーカーにデジタル・オーディオ・チャンネルを割り当てるようになっています。全てのL3sおよび垂直に設置されたL3t/L3mスピーカーは、下図で表示されているチャンネル・アサインに従います。例えば、2台の垂直に設置されたL3tおよびL3mスピーカーを同時に使用すると、自動的に左右に設定されます。垂直に設置された3台のL3t/L3mスピーカーを同時に使用すると、自動的に左右とモノ・センター(左+右)に設定されます。L6 LINKネットワーク上のL3t/L3mを水平に設置すると、フロア・モニターとして認識され、左+右に設定されます。他のスピーカーも下図に従います。各スピーカーのリア・パネルのL6 LINKディスプレイには、現在の設定が左("L")、右("r")、またはL+Rモノ("b")のように表示されます。

1台または複数のL3sサブをL3tまたはL3mタワーと一緒に使用する場合、クロスオーバー・ポイントは自動的に選択されます。

StageScape M20d ミキサーと一緒に使用する場合、チャンネル・アサインは上記のように反応しますが、水平に設置されたL3tまたはL3mは初期設定として自動的にステージ・モニターとして設定され、順番にA、B、C、Dに信号が送られます。また、ネットワーク上のどのスピーカーもStageScape M20dのタッチ・スクリーン・インターフェースからチャンネル・アサインを手動で変更することが可能です。この場合、各スピーカーのL6 LINKのリア・パネル・ディスプレイにはネットワーク上の配列を示す番号が表示されます。L3t/L3mおよびL3sスピーカーには独立した数字が割り当てられています。

Line 6 LINK経由でStageScapeとStageSourceを使用する場合は、110Ω AES/EBUデジタル・ケーブルを使用する事が推奨されます。一般的に市販されているXLRケーブルには、それぞれに品質の違いがあるため、標準タイプのXLRケーブルを使用すると、均一した効果が得られない場合があります。L6 LINKに15mを超えるケーブルの使用は推奨されません。

L3sおよび垂直の L3t/L3mスピーカーの数	オーディオ・チャンネル・アサインの初期設定								
	Spkr 1	Spkr 2	Spkr 3	Spkr 4	Spkr 5	Spkr 6	Spkr 7	Spkr 8	Spkr 9
1	L + R								
2	L	R							
3	L	L + R	R						
4	L	L	R	R					
5	L	L	L + R	R	R				
6	L	L	L	R	R	R			
7	L	L	L	L + R	R	R	R		
8	L	L	L	L	R	R	R	R	
9	L	L	L	L	L + R	R	R	R	R



## L3T/L3Mを吊す

L3tおよびL3mには、スピーカーを吊すために4つのM10ネジ山付き取り付けポイント、およびスピーカーを引っ張って方向を固定するためのポイントが1つ付いています。これらは安全にスピーカーを設置することに慣れている、資格を持ったプロフェッショナル向けにデザインされています。誤った設置方法はスピーカーや建物の破損、負傷、場合によっては死に至る場合もあります。

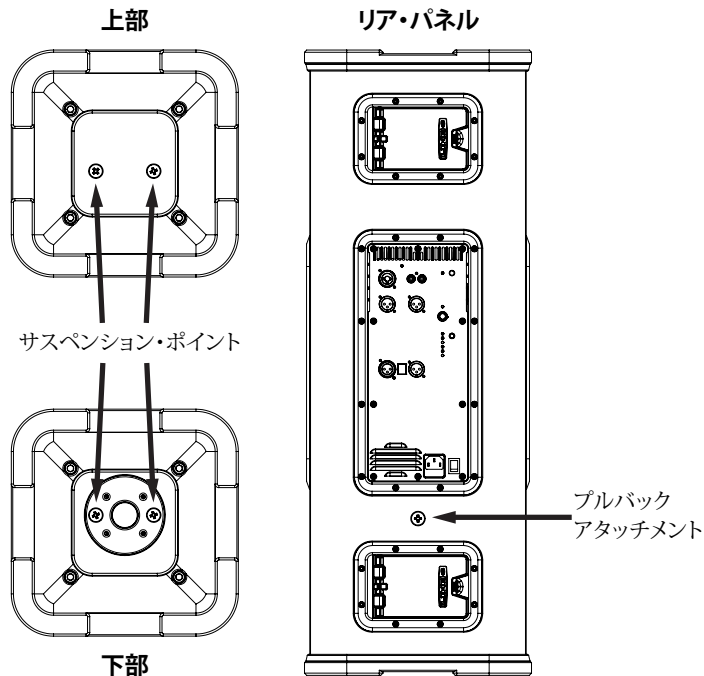
**注意!** スピーカーを吊す事に慣れていない場合、設置する前に資格を持った専門家にご相談ください。

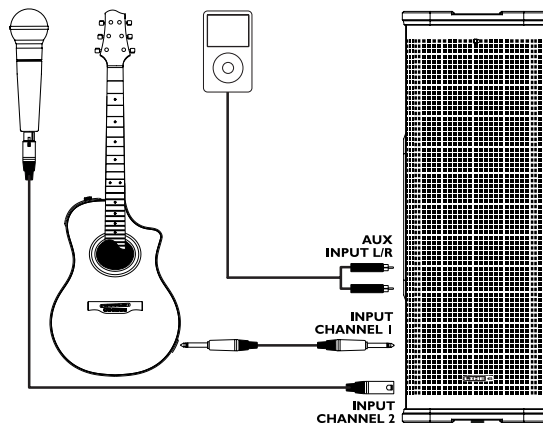
**注意!** スピーカー製品の設置および吊す前に、設置するハードウェア、キャビネット、取り付けポイント、トランスデューサーや関連する周辺機器を点検してください。機材の欠損、ゆがみ、耐久負荷の不足などの不具合があった場合、設置の強度を深刻に損なう可能性があるため、直ちに修正する必要があります。

**注意!** 必ず各地方自治体の建築基準法およびスピーカーや周辺機器の設置や操作に関する各地域の安全ガイドラインに従ってください。

L3t/L3mの上部または下部の2つの取り付けポイントを必ず使用してください。リア・パネルのプルバック取り付けポイントはスピーカーを下向きにするためのものであり、吊すための耐荷重性はありません。また、サスペンション・ポイントはスピーカーのみを吊すためのものです。追加のスピーカーやその他の機器をサスペンション・ポイントから吊さないでください。

常設する場合は必ずLine 6アイボルト・キット (パーツ番号 98-037-0005) を使用してください。





## ソロ・アーティスト

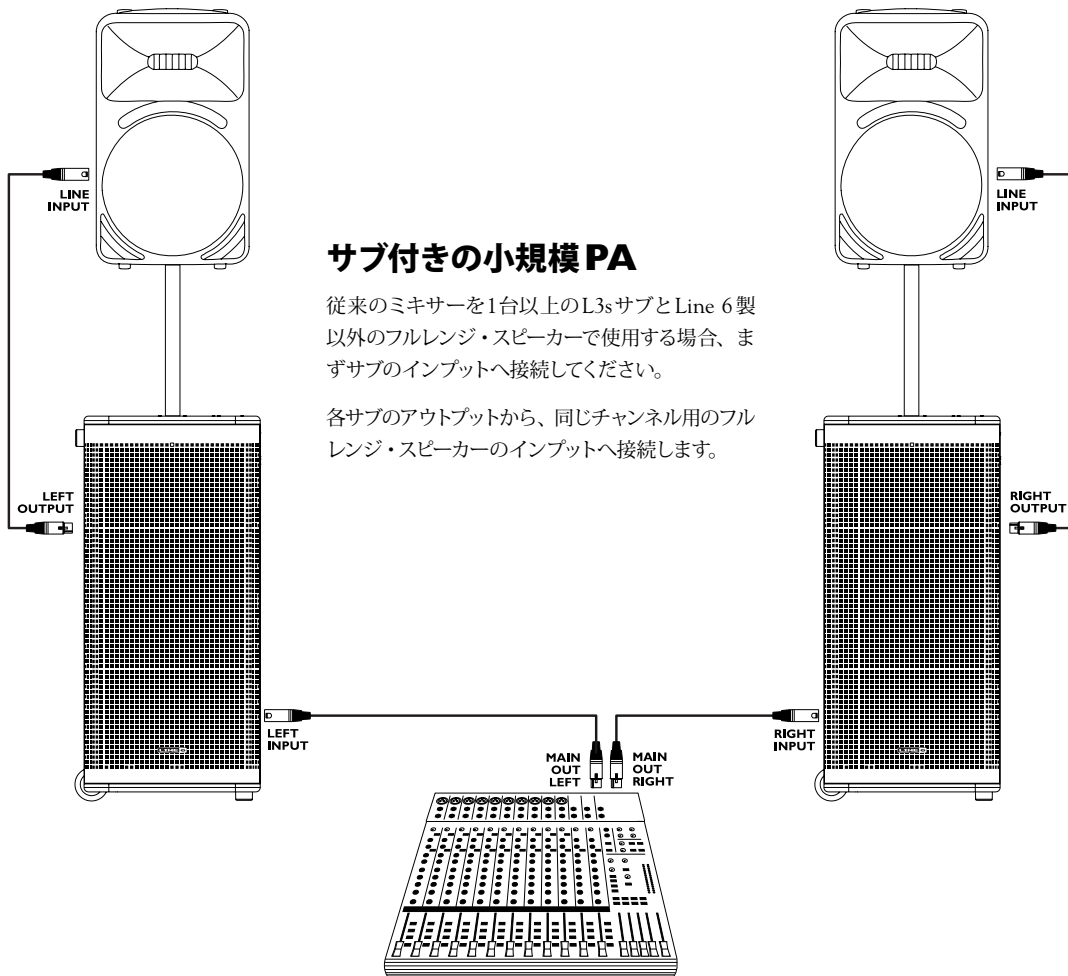
L3tは各チャンネルにEQ、リバーブ、モジュレーションを備え、シンガーソングライターなどに最適なポータブル・アンプを提供します。

アナログ・モデリング機能を備えたサイド・パネルのチャンネル1にアコースティック・ギターを接続してください。

マイクをサイド・パネルのチャンネル2へ接続してください。

伴奏やSEとして使用するポータブル・メディア・プレイヤー、CDプレイヤー、DJミキサーはリア・パネルのAux L/Rインプットに接続してください。





## L6 LINK™を活用した使用例

### 小規模クラブ・デュエット

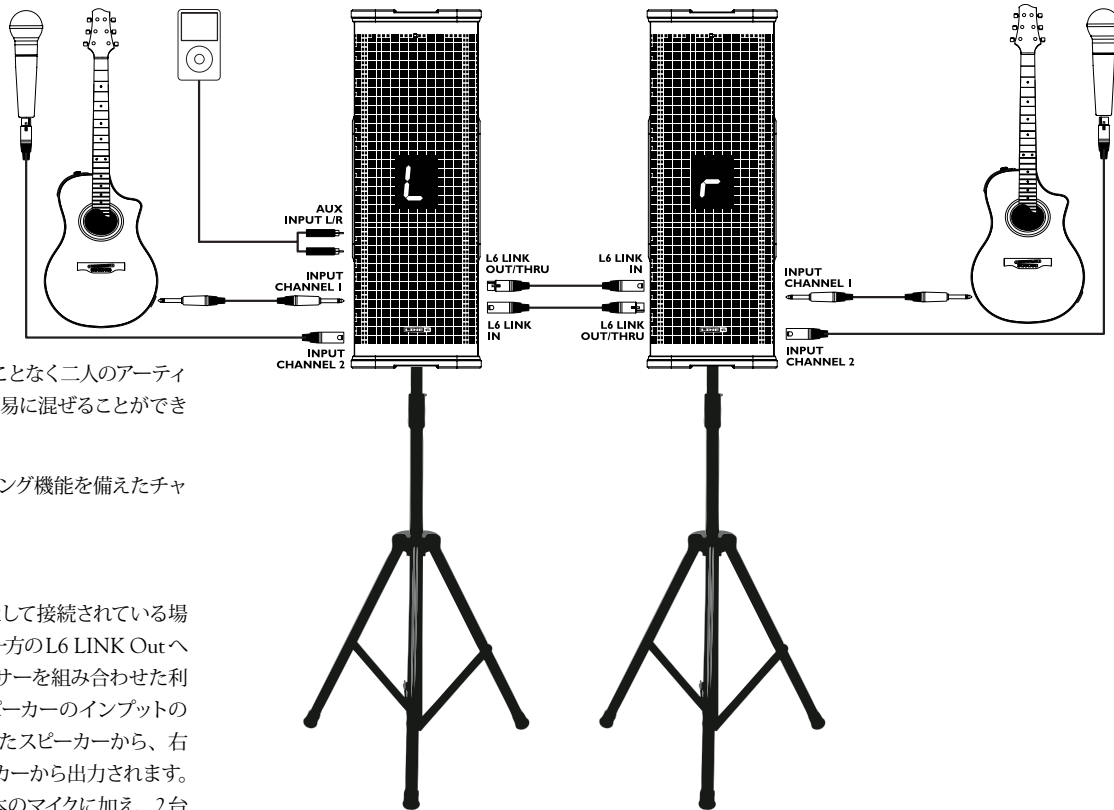
L6 LINKでは、外部ミキサーを接続することなく二人のアーティスト(それぞれL3tを使用)のサウンドを容易に混ぜることができます。

各スピーカーの、アコースティック・モデリング機能を備えたチャンネル1にギターを接続してください。

マイクをチャンネル2に接続してください。

2台のL3tスピーカーがL6 LINKループとして接続されている場合(各スピーカーのL6 LINK Inからもう一方のL6 LINK Outへ接続)、ステレオ・システムは二つのミキサーを組み合わせた利点を活用することができます。両方のスピーカーのインプットのうち、左およびモノ信号は"L"と表示されたスピーカーから、右およびモノ信号は"R"と表示されたスピーカーから出力されます。この設定では、例えば2本のギター、2本のマイクに加え、2台のMP3プレイヤーを同時に使用することができます。

2台目のタワーのインプットが必要なければ代わりにL3mを使用することも可能です。



## サブウーファーを使った 小規模PA

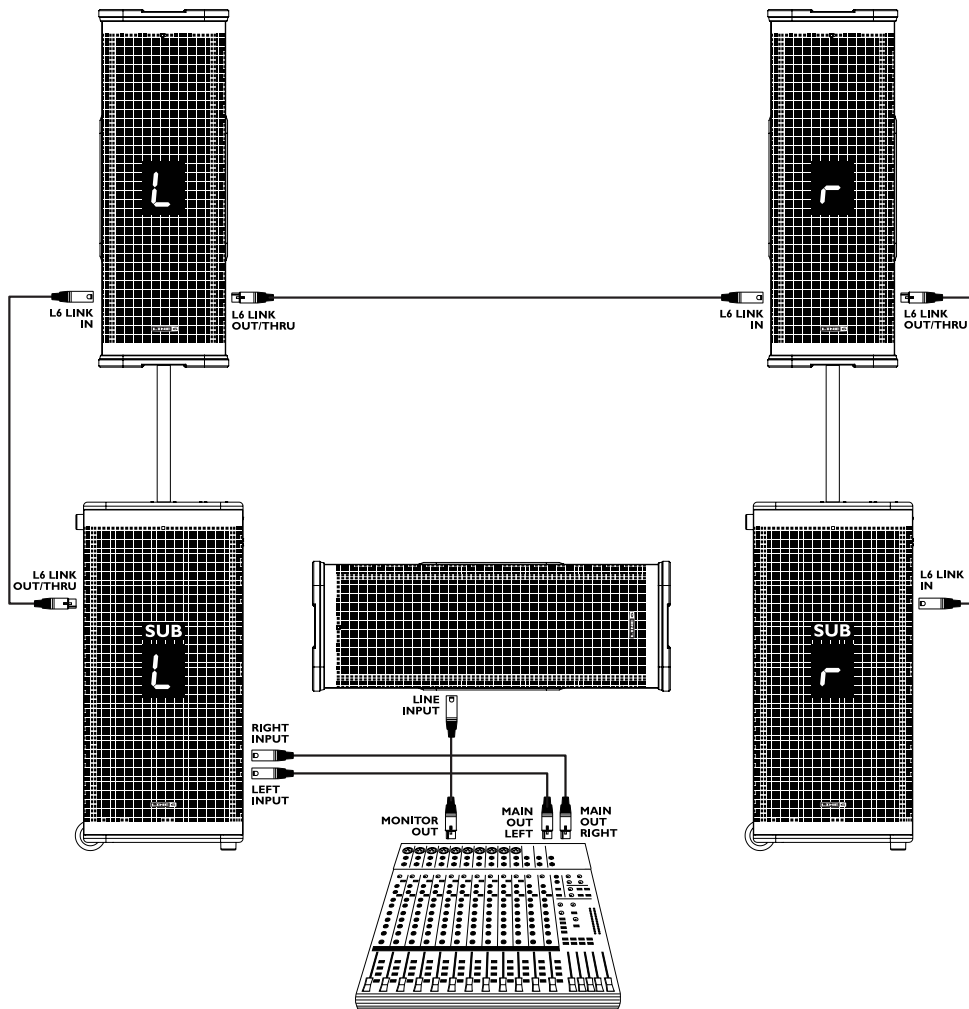
従来のミキサーとL3t/L3mタワー、L3sをL6 LINKで接続して使用する場合、ミキサーのMain LeftおよびMain Rightの両アウトプットをL3sのLおよびRのインプットに接続してください。

L3sのL6 LINKアウト/スルーを、左に設定したいL3tまたはL3mに接続してください。

L6 LINKを使用してスピーカーを連結していきます。L3サブおよびタワーは、16ページの図のように自動的に左、右またはモノ(左+右)に設定されます。

右の図では、最初のサブと最初のタワーは左として設定されています。2台のサブと2台のタワーしかないため、残りのL3t/L3mおよびL3sは自動的に右として設定されます。

フロア・モニターは従来通りミキサーのモニター・アウトプットから接続されます。



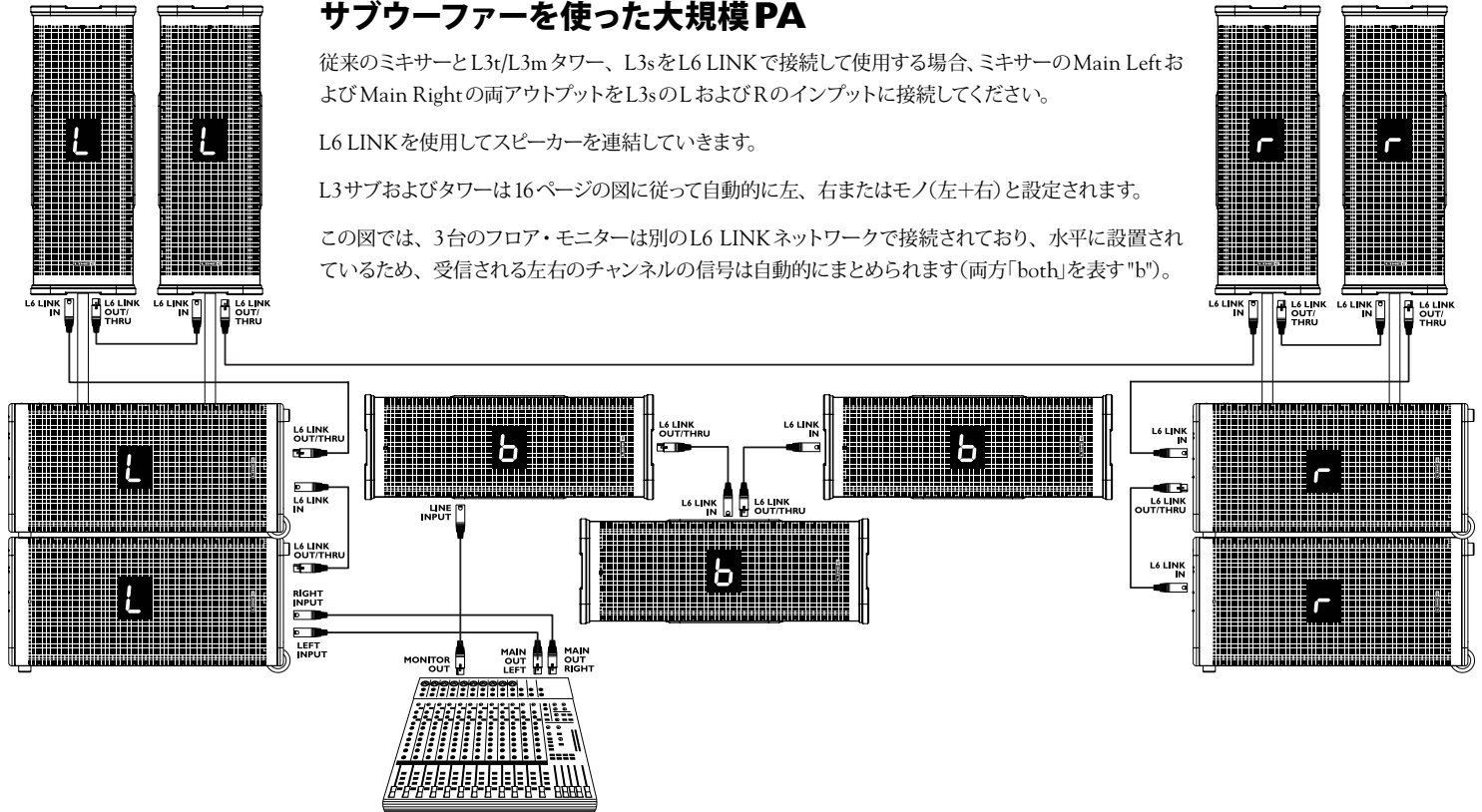
## サブウーファーを使った大規模PA

従来のミキサーとL3t/L3mタワー、L3sをL6 LINKで接続して使用する場合、ミキサーのMain LeftおよびMain Rightの両アウトプットをL3sのLおよびRのインプットに接続してください。

L6 LINKを使用してスピーカーを連結していきます。

L3サブおよびタワーは16ページの図に従って自動的に左、右またはモノ(左+右)と設定されます。

この図では、3台のフロア・モニターは別のL6 LINKネットワークで接続されており、水平に設置されているため、受信される左右のチャンネルの信号は自動的にまとめられます(両方「both」を表す「b」)。



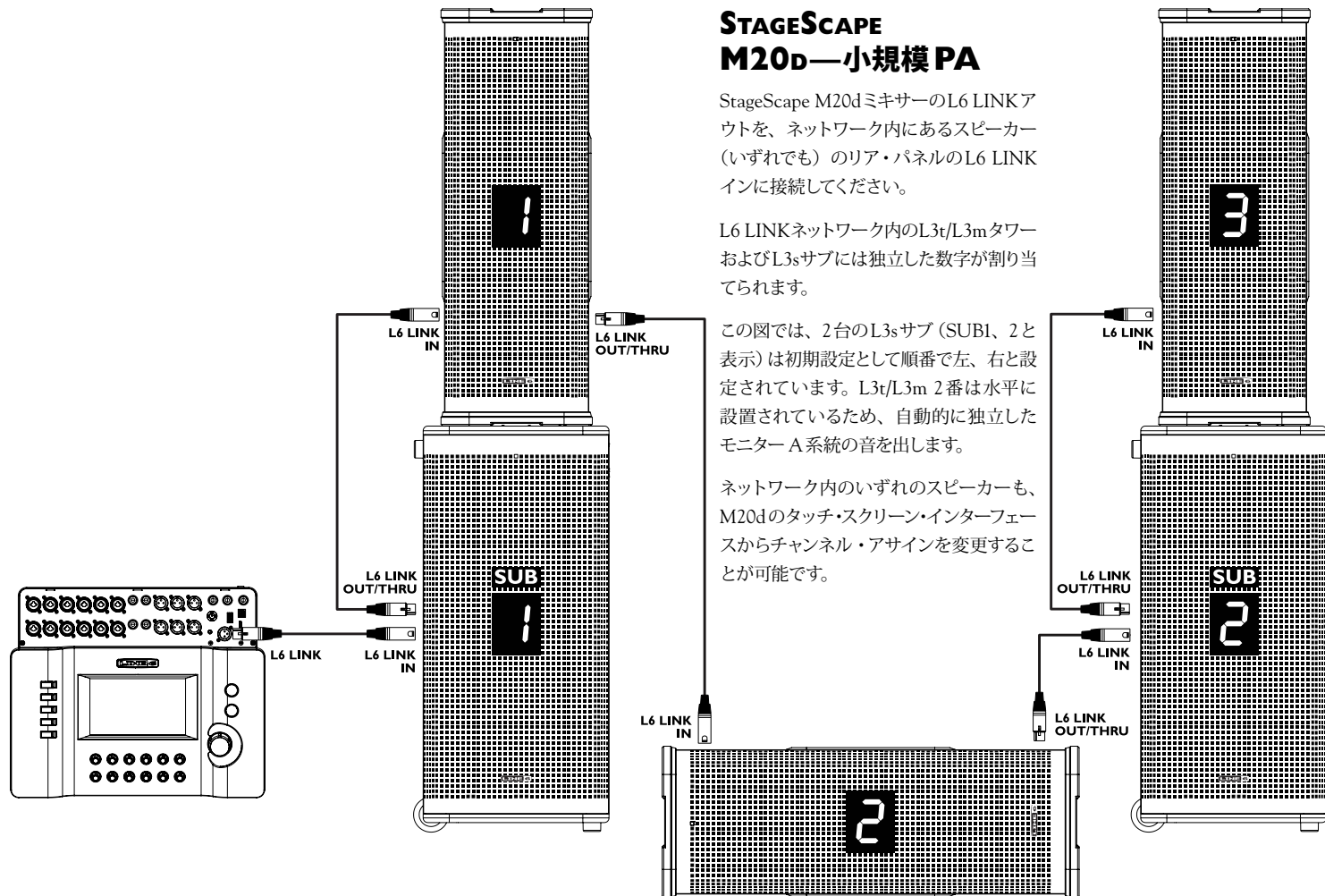
## STAGESCAPE M20d—小規模 PA

StageScope M20d ミキサーの L6 LINK アウトを、ネットワーク内にあるスピーカー（いずれでも）のリア・パネルの L6 LINK インに接続してください。

L6 LINK ネットワーク内の L3t/L3m タワーおよび L3s サブには独立した数字が割り当てられます。

この図では、2 台の L3s サブ (SUB1、2 と表示) は初期設定として順番で左、右と設定されています。L3t/L3m 2 番は水平に設置されているため、自動的に独立したモニター A 系統の音を出します。

ネットワーク内のいずれのスピーカーも、M20d のタッチ・スクリーン・インターフェースからチャンネル・アサインを変更することが可能です。



# STAGESCAPE M20D—大規模PA

下図では、4台のL3sサブ(SUB1から4と表示)および7台のL3tスピーカー(独立した別の番号1から7と表示)がM20dミキサーから連結接続されています。サブおよび直立のタワーは、自動的にパワフルなステレオ・メイン・システムとして設定されます。水平に設置されているL3t/L3mスピーカー(3番、4番、5番)は自動的にステージ・モニターとして設定され、順番にモニターA、B、C系統の信号が送られます。

M20dのタッチ・スクリーンにより、いずれのスピーカーもアサインし直すことが可能です。

